

第六十六回句会 俳句

【高点句】

- ☆満月や癌の完治を告げらるる 〈伸子〉  
☆終電の音遠ざかりちろ鳴く 〈眞澄〉  
☆チエロの音の深く染み込む秋の暮 〈雄記〉  
☆盆地の夜冷気に桃の重さ増す 〈莫院〉  
☆雨匂ふ風咲き初むる萩揺らし 〈明美〉  
☆炎立つ秋刀魚の脂落つるたび 〈明美〉  
☆すうつとは剥けず無花果午後は雨 〈明美〉  
☆小悪魔を溜めし石榴の実の緋色 〈莫院〉

【各自一句】

- ・あまた生る青柿黄柿鳥の目 〈莫院〉  
・一つ食べ間をおき摘まむさくらんぼ 〈一馬〉  
・落ち柿の後に残れる渋の味 〈童心〉  
・梨待ちて宅配便に耳澄ます 〈緑〉  
・不揃いの無花果里の母のもぐ 〈安津子〉  
・天地無用一番上はマスカット 〈眞澄〉  
・朝や秋野風呂も山もひとりじめ 〈伸子〉  
・玄関にくり抜かれたる南瓜かな 〈隆司〉  
・額押しつけて車窓の遠花火 〈郁代〉  
・日曜の梨剥く母の鼻歌よ 〈撫子〉  
・秋彼岸自前のしきみお供えず 〈青蛙〉

\*以上、37句（3句ずつ12名、1句1名）より、選句は15名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句（今回は第1位が同点で2句、第3位が同点で6句）

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）